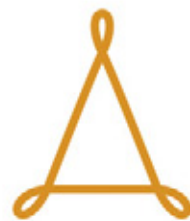


北のとびら



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

発行／財団法人北海道文化財団

特集

未来に響く音楽

阿部 裕一／泉 功一郎／大岡 弘典

インタビュー

若林 雅久

[RJB音楽監督]



No.

86

OCTOBER 2010

第24回 北海道演劇祭

江別からのはばたき

平成22年9月22日〔水〕～26日〔日〕

江別コミュニティセンター／アートスペース外輪船／ドラマシアターどもⅣ

主催：北海道演劇集団・第24回北海道演劇祭実行委員会

共催：財団法人 北海道文化財団、江別市教育委員会、旧岡田倉庫活用民間運営協議会



★空の記憶／「座・れら」(札幌市)



●講師の西田豊子さんによるワークショップ／「ドラマでレッスン 演劇とコミュニケーション」



北のとびら

No.
86

OCTOBER 2010

表紙／新冠ビッグバンド ジャズ フェスティバル2010
「レ・コード館ジュニア・ジャズ・バンド」の演奏

CONTENTS

02 Stage
第24回北海道演劇祭

04 インタビュー
若林 雅久
(レ・コード館ジュニア・ジャズ・バンド音楽監督)

06 **特集**
未来に響く音楽
阿部 裕一／泉 功一郎／大岡 弘典

08 北海道の食 [第2回]
鮭～大自然の賜りものと生きる人々の知恵～

10 地域からのお便り
・荻小劇場の仲間たち
・コミュニケーション教育・アウトリーチ事業(島牧村)

12 この街この人 [第13回]
積丹町

14 アートギャラリー [第17回]
朝地 信介 (日本画家)

15 Information

「北のとびら」は、全道の文化ホール、文化施設などで
ご自由にお持ちいただけます。
※定期的に購読をご希望の場合、直接当財団へお問い合わせください。



資源の保護と環境への配慮を考え、本紙には古紙再生紙、
インクは大豆油インクを使用しています。

取材・文／對馬 千恵
写真／西山 大介



レンガの街、江別が 演劇の熱気で再び燃え上がる

今年で24回目を迎えた、道内各地で2年に一度行われる「北海道演劇祭」。16年ぶり2度目の会場となった江別で、全道から集まった8劇団が10公演を行った。

今回は「地域とのつながり」を強く意識して、参加者が2つの小劇場と1つのホールを歩いて行き来し、レンガの町を遊歩しながらたどり着くという演出が試みられ、余韻に浸りながらたっぷり演劇を楽しむことができた。

役者の息遣いが常に感じられる小劇場での公演は、大入り満員の盛況。西田豊子さんが講師を務めた「演劇ワークショップ」では、参加者同士ペアとなってパートナーを人形として操るなど、演劇を通してのコミュニケーションを理論と実技で楽しく学んだ。

演劇祭の5日間は、江別が演劇の熱気に包まれていた。



●十二の月の物語／劇団「風の子北海道」(札幌市)

◆むかし話の世界／「飯田信之演劇事務所」(札幌市)



かちかち山

かにもかし

ガンとり



★外輪船の踊り子／劇団「川」(江別市)



★二人の長い影／劇団「新劇場」(札幌市)



★鉄船／劇団「海鳴り」(紋別市)



◆Feel to ～想いを～／劇団「札幌ろうあ劇団 舞夢」(札幌市)



●はるかなる イブツ ～江別～／劇団「ドラマシアターども」(江別市)

■まちの文化創造事業 (共催事業)

シアタープログラム

地域のみなさんが参加する自主的・創造的な、音楽・演劇・舞踊等の舞台発表活動及び普及活動(ワークショップ、レクチャー等)を共催します。

- ・公募キャスト、スタッフによる市民参加の舞台公演など
- ・複数地域から参加する演劇祭、音楽祭など



RJB音楽監督

若林雅久

種をまき、水をあたえる。
本気があるから育つジャズの芽。

新冠町に拠点をおくレ・コード館ジュニア・ジャズ・バンド(RJB)は、小学生から中学生までで結成している、「子ども達だけで演奏する、子ども達のための」ビッグバンドです。今年で7年目となるRJBを立ち上げから指導し、見守ってきた若林雅久さんにお話を伺いました。

自由に楽しいジャズを、子ども達に伝えたい

ジャズは楽譜の読めない人でも楽しむことができます。守るルールは少しかけ。後は楽譜に縛られずに自由に表現すれば良いのです。この楽しさを広めたいと思い、高校の部活動で教えたり、「札幌ジュ

ニア・ジャズ・オーケストラ」を立ち上げ、活動していました。そこに新冠から音楽監督の依頼が来て、「RJB」との歩みが始まったわけです。

新冠町には「ブルーホース」という長い歴史をもった社会人のビッグバンドがあり、子ども達にも「楽器体験講座」を開いていました。回を重ねる

ごとに子ども達がどんどん上達してくるので、本格的に指導できる人をということで私が呼ばれました。

大人の本気が、子ども達を変え

指導の仕方は任せてくれるということだったので、ほかに2人の講師と3人体制でス

タートしました。ところが、当時のメンバーは小学校4、6年生の子ども達だけ。私は高校生を中心に教えていたので、最初は説明しても話が伝わらず大変でした。しかも、本格的な指導を受けたことがない子ども達なので、最初は姿勢を正すところから教えた。楽譜や楽器を大切にす



レ・コード館ジュニア・ジャズ・バンド音楽監督

若林 雅久

Masahisa Wakabayashi

砂川市出身、札幌市在住。国立音大在学中からジャズを始め、33歳まで東京を中心にトロンボーン奏者として活躍。その後、北海道に戻り高校の音楽教師を勤めた後、二十数年にわたり一貫して子ども達にジャズを指導する。教え子の中にはプロで活躍する人も多数。現在は、新冠の「レ・コード館ジュニア・ジャズ・バンド」の音楽監督を務めるとともに、今年度は「新冠ジャズワークショップ2010」の講師も務めている。



新冠ビッグバンド ジャズ フェスティバル2010にて



【講座1】ダンスの表現力を通して、音楽の表現力を身につける



【講座2】ジャズの本場アメリカで活躍中のプレイヤーに学ぶ

舞台創造支援事業

アーティストが地域で創造的な演劇・音楽等の舞台発表活動に携わる皆さんと一体となり、舞台づくりの講座やワークショップ等、舞台制作のプロセスを体験しながら、舞台公演を上演する自主事業です。

■これまでの実施市町村
由仁町、白老町、深川市、稚内市、苫前町、七飯町

平成22年度
「新冠ジャズワークショップ2010」

場所 新冠町レ・コード館

講師 若林 雅久 他

●講座1・講座2・講座3・講座4(終了)

●講座5:模擬公演の制作・上演/平成22年9月中旬～定期演奏会/平成22年11月23日(祝・火)

●講座6:舞台公演を評価する/平成22年12月中旬

ということから始めたので、1年目はたったの1曲しか取り組みませんでした。

「試行錯誤で始めた『RJB』ですが、7年目の現在、30〜40曲のレパートリーがあります。講師が新冠に来れるのは、月に2回だけ。それだけの指導では、到底ここまでにはなりません。それでも『RJB』が上達してこられたのは、なんといっても『ブルーホース』のメンバーの助けがあったからです。

「RJB」は毎週月曜日に定期練習をしているのですが、「ブルーホース」の皆さんは、私たち講師が教える4時間の練習に最後まで参加して、指導したことを各々の練習に反映してくれたのです。彼らは、プロで呼んでおこなうレ・コード館で

のコンサートやワークショップ、講習会などにも必ず参加します。彼らも、一生懸命学ぼうと本気なんです。それが子ども達にもちゃんと伝わります。レ・コード館の職員・スタッフもとても協力的で、私たち講師と子ども達、そして保護者、この3者間の連絡・調整の緻密さにはいつも感心させられます。子ども達が上達するには、講師の力より、講師がやるうとしていくことの受け皿をしっかりとつくることのできる、地元のサポート体制が不可欠なんだとつくづく思いました。

上手い下手ではなく、
良いか悪いか

「楽器体験講座」は今も続いていて、そこで3ヶ月、楽器を体験して、ジャズに興味を持ち、続けたいと思った子ども達が「RJB」に入ります。

しかし最初からレギュラーメンバーになれるわけではなく、最初の1年間はいわゆる二軍扱いで、ジャズの基本を学び、10曲程度の曲もマスターしなければなりません。そこを乗り越えて、はれてレギュラー入りした子どもにも、20〜30曲のレパートリーは、20〜30曲のレパートリー曲が渡されます。その結果、また二軍に戻る子どもがでてきますが、それは演奏が下手だからではありません。技術だけではなく、常に努力していける力がレギュラーに求められていくからです。

誰かの受け売りなんですけど、「音楽に上手・下手はない、良い・悪いがあるだけだ」という言葉が好きなんです。一生懸命努力している子ども達も「良い」演奏には真剣に耳を傾けてあげて、サポっている子どもも「悪い」演奏には厳しい言葉を投げかけます。大人がシビレを切らずに、この対応を繰り返していけば、子ども達は自分の演奏に自信を持つようになります。

ジャズを教えることは
ひとを育てること

結局、ジャズをやる上で目指しているのは、楽器がうまくなるだけではなくて、人間性を育てるとというのが一番の目的なんです。教えているうちに、たまにプロになる子どもがいますが、プロに育てたくて教えているわけじゃないのです。音楽、その中でもたまたまジャズというツールを通して、人間性が高まっていく、ひいては社会に出て困難なことに直面しても、大丈夫な人間に育てていくことを目的としています。

来年になるとまた半分ぐらいが卒業になり、ガラッとメンバーが入れ替わります。子ども達に教えている限り、これは避けられないことです。でも、すぐ芽が出ないからといって止めてしまっても、何も生まれません。種をまき、水をあたえ続けて、育てていく時間の厚みが大切だと思っています。

未来に響く音楽—ジャズを育む現場から—

阿部 裕一 | 泉 功一郎 | 大岡 弘典

道内では、各地域で数多くのジャズフェスティバルが行われてきました。しかし、その勢いもひと区切りがつこうとしています。一過性のイベントから、生活の一部としてジャズは根ざしていけるのか。聴く側、指導者、街づくりの立場から、道内のジャズシーンで活動している方々にお話を伺いました。



ジャズの良さを次の世代に引き継ぐ

泉 今日日は、北海道のジャズシーンで、演奏だけではない活動をしている方々に、ジャズが北海道の新しいコミュニケーションツールになっていけるのかどうか、それぞれの取り組みを通して話し合えればと思います。10年という区切りを迎えて終了することになった「室蘭ジャズクルーズ(MJC)」の副実行委員長の大岡弘典さんには、街づくりのかかわりから、「北海道ジュニアジャズワークショップ(HJJW)」を主宰している阿部裕一さんには、アンサンブルを通じたジャズ教育。また、私はジャズ情報誌「オーディエンス」編集者として、聴く側の立場から話を探っていきたいと思っています。まずは、新冠ビッグバンドジャズフェスティバル2010で、大学生にも負けない演奏を披露した、小中学生で編成する「HJJW」ですが、結成のきっかけは？

阿部 僕はジャズ演奏を独学で学び、すごく遠回りをしたんです。そういうことを次の世代にさせたくないという思いから、個人で教えるようになって。札幌にもすでにジュニアジャズバンドがありました。子どもであってもジャズのテイストをきちんと伝えるという、別の方向性で子ども達に教えたくなり、始めました。

泉 別の方向性って？

阿部 これは僕の捉え方ですが、まだジャズはクラシックほど幅広く聞かれる状況にないと思うんです。クラシックには、バッハもモーツァルトもファンが大勢います。ジャズは、いつからか新しいものだけを残そうとして、ファンの理解も層も薄くなってしまった気がします。でも、ジャズの根源であるスウィング感を大切にしたい、伝統的なスタイルがあるので、そこを入り口にしてジャズの間口を広げていくことが必要なんじゃないかと。

大岡 マルサリスの活動と繋がる部分があるよね。彼の楽団は、ホテルやステージ裏で誰かが話しかけてきたら、その場でレッスンを始めるそうです。そういう教育のスタンスには憧れますね。

阿部 それ以前に、ジャズの教授法が、日本ではまだ確立されていないと思うんです。

泉 それは日本とアメリカで



ジャズトランベッター
北海道ジュニアジャズワークショップ(HJJW) 主宰
阿部 裕一 Hirokazu Abe
トラッドスタイルのジャズトランベッター奏者、ヴォーカリストとして活躍中。ジュニアを対象にした「HJJW」を、酒本ひろつぐ氏(tb)と主宰。「札幌ジュニア・ジャズ・スクール2001」常任講師、新冠レ・コード館ジュニア・ジャズ・バンドの講師を務めるなど、教育活動に積極的に取り組んでいる。

ジャズギタリスト
(有)札幌ビレッジボイス代表取締役
泉 功一郎 Koichiro Izumi
学生時代にビ・バップの洗礼を受けジャズギタリストとして名古屋にて演奏を開始。現在は札幌を拠点として演奏活動を続け、音楽情報誌「Audience」を発行。SVVジャズ・スクール講師、北海道ジャズ実行委員会副代表。

(株)エルム楽器 コンサートピアノ調律師
室蘭ジャズクルーズ副実行委員長/プロデューサー
大岡 弘典 Hironori Ooka
2001年から始まった、音楽で街の活性化を目指す市民ボランティアの運営による「室蘭ジャズクルーズ」のプロデューサーと、副実行委員長をファイナルまで兼務。2005年から「札幌ジュニア・ジャズ・スクール」のオーディション審査員を務める。

決定的に違う部分。僕がびつくりしたのは日本の音楽教育のシーンで、ひと昔前の高校野球みたくに精神論だけでやるうとする状況があること。戦後の教育環境で、知識も情報もない時代にスバルタで教えられた人は、本人が体験した通りにまた教えてしまつて、音楽の本当の良さ、ジャズの自由さを伝えられていない場合がある。

阿部 指導者が最初の的確な情報を与えてあげる。そうすれば、ジャズに限らず一生涯、音楽自体を楽しんでいけるんですよね。指導する側は、もっと責任を持って教えていかなければと思います。

続けることで環境は育つ

阿部 演奏する側と聴く側の距離感っていうのも大事ですよ。プレーヤーばかりが育つても、理解して聴いてくれる人が増えていかないと。

泉 まず最初に、それぞれの音楽のありどころが違つてあたりまえというのがありますよね。でも、時間をかければ聴いてくれる側の許容力も変わってくるだろうし、演奏側も聴いてもら

いやすい環境を考えたり、お互いに歩み寄つていけると思つとにたく、いろいろな場面で、多くの人がジャズに触れられる場を増やし続けていかないと。

大岡 続けるって重要なことです。私は多くの人がかかわる催しは、軸がぶれたら続かないと思う。たとえば、集客のためにスポンサーから「ジャズ以外の音楽も」という話になると、軸がぶれる。そうするとスタッフの士気が落ちて、もともとの魅力が減り、お客も離れる。それだから「MJC」は、相互理解し合えるスポンサーを求めて運営していました。

泉 そういう意識を持った人がいないと続かないんですよ。そして阿部さんのように、音楽自体が持つ本物の部分を伝えていく普及活動を子ども達に行えば、親にも伝わるだろうし、それがつながって地域にも根づいていけるんじゃないでしょうか。

北海道をジャズ大陸に

泉 10年間続いて、地域にも根づいて大成功だった「MJC」ですが、なぜ引き継ぎされな

かつたんですか？

大岡 我々は、最初の「街に音楽の鼓動を響かせたい」というコンセプトを守り、全身全霊をかけて取り組むことで、多くの方々から支持が得られました。これは、街づくりの素人が何もないところからやつても、10年かけたら、ここまで出来るんだということなんです。だから、次の誰かにもゼロベースからやつてみてほしい。運営にはうまくいかないこともあり、そこで熱い思いが発熱するでしょう。それが表に発信された時に、新しい風が生まれ、僕らの手法とは違う、新たな街づくりが育つて活性されることを期待したのです。

阿部 あとは次の世代をどう育てていくかですね。ニューヨークでも、普及活動に関しては苦戦しているようですが、子ども達に教えている有名なライブハウスがあります。毎週日曜日子ども達のレッスン用に2時間場所を開放し、2週間に1回ライブをする。そこに聴きに来たお客さんが寄付するお金で、このワークショップは運営されています。今はそこに、ニューヨークの一流ミュージシャンが協力して、ジャズの普

及に一役かっています。

大岡 そういう場合は、自分自身の表現や、将来につながる成長を、ジャズを通して学ぶことができます。

阿部 だから、若い時に音楽を楽しんだ記憶があれば、どんなときでも表現する力、創造力のある生き方が出来る。そのためには、今、ジャズをやる人も、聞く人も、両方育てる必要があるし、それを表現する環境も育てなくてはいけないですよ。

大岡 室蘭は、ジャズが市民に浸透して、家族連れで来るようになりまして。それつてやっぱり、青空の下で寝転びながら聴いて、ジャズの自由さを心から楽しめたからだと思います。ジャズの演奏が、北海道の豊かな自然に囲まれた所や、ウオーターフロントでおこなわれることで、生活に溶けこんでいけたらいいですね。

もっと北海道をジャズ大陸にしていきましよう。

※ウィントン・マルサリス

トランプ、サックス、ピアノの必要性を説き、教育を目的にした、リンカーン・センター・ジャズ・オーケストラを結成。世界各地での普及型コンサートや、映像分野への取り組みなど、多方面に活躍するジャズミュージシャン。

アルテ ポルト

北海道文化財団内の展示スペース「アルテ ポルト」では、1作家1ヶ月という期間で作品を紹介しています。また、出品作家による「ミニトーク」も開催します。

展示 & ミニトーク
11月:渡倉 純价 展
ミニトーク11月10日(水)
12月:阿部 典英 展
ミニトーク12月8日(水)

※「ミニトーク」の時間等、詳細はホームページをご覧ください。



今年が最後になった
室蘭ジャズクルーズ(MJC)



演奏中の北海道ジュニアジャズ
ワークショップ(HJJW)



道内の今のジャズを伝える
「Audience」

豊かな食に恵まれた北海道。しかし、「北海道の食」はさまざまな物語をへて今にいたっています。食の地産地消を通じて見えてくる北海道の食の歴史や生活文化を、全4回にわたってご紹介します。

第2回 鮭～大自然の賜りものと生きる人々の知恵～

アイヌの人々は、鮭のことを「カムイチェブ：神の魚」と呼んで、食のみならず衣服などにも利用し、人間を助ける大事な存在として大切に扱いました。時代が変わっても、秋に川を遡ってくる鮭は北の大地に多くの恵みをもたらしています。現代に生きる人々が知恵を絞った姿をご紹介します。



い

く

ら

イクラとともに歩む 標津のまち

標津のイクラは、軍艦巻き
の海苔が必要ないほどの新鮮
さを保っている、といわれて
います。そんな「標津のイク
ラ」になるまで、標津町では、
長い時間をかけて町ぐるみで
取り組んできました。

標津町は、鮭の漁獲量が15
回も日本一を記録するほど鮭
漁が盛んな町。しかし、昭和
60年代には、その漁獲量の多
さが仇となり、鮭の品質を落
としたことがありました。

特に非加熱食品であるイク
ラは、品質の低下が避けられま
せん。そこで1990年からは、
鮭の船倉に海水と水を入れる
など改善し、品質が飛躍的に向
上しました。

その矢先に、O-157の食中毒
事件が近隣の地域で発生。標
津のイクラも風評被害を受け、
イクラが主力産物である標津

にとつて事態は深刻なものとな
りました。

早急に鮮度保持とともに「安
心・安全」を実践するための体
制づくりが必要でしたが、町に
は大小さまざまな規模の水産
加工場があり、ひとつのマニユ
アルで全てを管理することは
不可能です。

そこで、町は道の事業と連
携し、ハサップコンサルタン
トと漁船・加工場・市場などを
一軒一軒まわって、個々の現
場に合わせた、標津ならではの
品質管理マニュアルをつくら
りました。この取り組みは国
内でも標津町が最初で、以後
「標津町地域ハサップ」は、北
海道の秋鮭管理モデル計画と
して他の地域でも、食の安全
の指針となったのです。

町の産業を守りたい。その
想いが高度な衛生管理の徹底
を実現させました。これからも、
地域ハサップを礎にした標津
から、海の恵みが届くでしょう。

※地域ハサップ

ハサップ(HACCP)は、NASAが
宇宙食の衛生管理と安全性確保のため
考案した、製造の全工程を管理し、製品
の安全性を保障するためのシステム。
地域ハサップは、この理念をもとに、よ
り安全性を徹底し、地域に合わせた管
理を行うシステムです。

すり身

網走でうまれたすり身技術が、 鮭の新しい道をひらく



「アシ」のしつかり味
わえる、鮭色のかま
ぼがこの土地
から生まれるこ
とでしょう。

1960年、オホーツク海に面する網走の町で、即席めに並ぶ大発明と言われた技術が開発されました。それが「冷凍すり身」です。冷凍保存に耐えられるすり身は、水産練り製品の一大発展につながりました。そんな網走の誇れる製品技術を活かし、「網走特産オホーツクサーモンかまぼこ」をつくりだそうとしているのが、「東京農業大学オホーツクキャンパス食品資源開発学研究室」です。

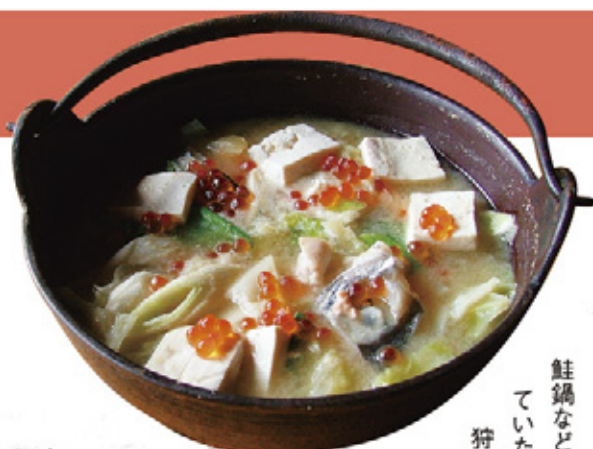
なかなか実現することは出来ません。「すり身技術が生まれた地で、中途半端なものを出すわけにはいかない」と、スタッフは研究を続けました。そして、その研究過程で新たなアイディアが誕生したのです。それは、すり身と全道第2位の生産量を誇る網走産小麦を使った食品の開発です。

構想から3年、試作・試食を繰り返し、ついに昨年オホーツクサーモンを原料にした煎餅が商品化。地元のかまぼこ店と提携し、「手づくりかまぼこ」の味わいをそのまま楽しめるこの煎餅は、大好評になりました。

さらに、味や環境を重視して、あえて「水さらし」を行わない製造工程は、本当の意味で地域が生かされる商品開発となりました。いつの日か、

鍋

鮭地引網漁が生んだ 北海道の名物、石狩鍋



鮭鍋など地元で呼ばれていたこの料理が、「石狩鍋」に生まれ変わったのは、昭和20年代前半の頃、観光客向けに名づけ

石狩鍋の材料は、生鮭の身やアラ・玉ねぎ・キャベツ・白菜など。汁は味噌仕立てでつくられ、アラまで入れるのは活きのいい鮭を使うことができる証です。新鮮素材を素朴な味に仕立てた石狩鍋は、北海道を代表する郷土料理ですが、石狩鍋が今の名前・形になったのは戦後のこと。

石狩での鮭自体の存在は昔から広く知られており、「蝦夷(えぞ)之図」(1712年)という地図には、石狩の位置に「石刈大川有鮭多出」と記されています。江戸時代の頃からすでに、鮭がこの地で身近だったのは容易に想像できます。





地域からのお便り

地域で行われているユニークな文化活動の紹介や、地域のこんな活動が知りたい等の声をお届けしています。

浦河町 アドバイザー派遣事業：舞台表現アドバイザー

荻小劇場の仲間たち

浦河の町に入る少し手前、荻伏の信号を左に曲がると見慣れた風景が広がる。荻伏小学校に通い始めて、気がつけば5年目である。6年生の総合学習「荻小劇場」は、毎年秋に浦河総合文化会館で行われる。学習発表会での演劇などを町民の人達に向けて上演するのだ。

「荻小劇場」が他地域の学習発表会と異なるのは「継続性」だ。毎年新しい6年生が演じるから顔ぶれは毎年違うが、そこには受け継がれたシステムがある。学校、教育委員会、劇場スタッフに支えられ、「荻小劇場」という「劇団」は、この5年間きちんと成立してきた。そして、公演を楽しみに待つ観客が、町民劇団でもなくアマチュア劇団でもない、「荻小劇場」という幻の「劇団」を生み出している。

いる。今の6年生は、先輩達の作品を4回も観ているので、それを心に留め作品に取り組む。つまり、ごく身近に「比較できるもの」があるのだ。

今年の6年生から、「荻小劇場」の中で、一番印象に残っている作品は何ですか？という質問が出て、心の中でのんまりした。休み時間には、「2年前の作品の〇〇という役は、僕の姉ちゃんだ！」という話に花が咲く。着実に、劇団員の輪が広がっているなあと嬉しく思う。

公演までに、毎回3回程度浦河へ足を運ぶのだが、まずは「質問コーナー」から始める。その質問を、ゲームや上演する台本を使って答えていく。5年かけて僕が編み出した、「荻小劇場」用のワークシヨップ・メニューである。最初に伝えるのは「表現に決まりはないこと」。何をしてもいいし、また誰かがやることに、絶対的な間違いはないということを知ってもらう。次にやるのは「頭に浮かんだ漠然とした

イメージを具体的ににして、共有すること」。身近なことからはじめて次第により遠くのこと(妖怪の世界とか、宇宙の生活とか)を具体的に共有する。やっていくうちに、こちらが答えなくとも、自分たちで大体の質問の答えを見つけてから頼もしい。

「荻小劇場」の仲間達がさらに増えていけばいいし、「父さんたちがやってきた頃は……」なんて話が出来ればいいし、そうやって地域の文化は根づいて厚みを増していくのだ。



脚本家・演出家 清水 友陽 [WATER33-39]代表

紋別市出身、小樽市育ち。「清水企画」で活動後、「WATER33-39」を結成、代表を務め、札幌を拠点に演劇活動を続けている。また、俳優活動のほか、テレビ・ラジオドラマなどの脚本執筆、さらには、ナレーター、専門学校やタレントスクールの講師、学校や児童会館などでの演劇のワークショップ講師も数多く行っている。

■アドバイザー派遣事業（自主事業）

地域の文化団体等からの要請に応じて、文化活動に関する専門的な知識や経験を有するアドバイザーやプロのアーティストを派遣し、事業企画や舞台技術に関する指導・助言、舞台表現に関するワークショップ等を行います。

北海道文化財団 自主事業 実施レポート

文化の宅配便

公演名 ユニット・リトルバレエ
「誰でもわかるクラシックバレエ」

【泊村】
ワークショップ：平成22年8月23日(月)
公演：平成22年9月5日(日)

【実施日】
公演：平成22年9月5日(日)

【公演名】
金子竜太郎(和太鼓公演)

【新ひだか町】
【実施日】
公演：平成22年9月25日(土)
ワークショップ：平成22年9月26日(日)

【実施日】
公演：平成22年9月28日(火)

【厚沢部町】
【実施日】
公演：平成22年9月29日(水)

【実施日】
平成22年9月27日(月)～28日(火)

【実施日】
平成22年9月10日(金)

【実施日】
平成22年10月6日(水)

【実施日】
平成22年9月10日(金)

【実施日】
平成22年9月10日(金)

【実施日】
平成22年9月10日(金)

【実施日】
平成22年9月10日(金)

【実施日】
平成22年9月10日(金)

【実施日】
平成22年9月10日(金)

【実施日】
平成22年9月10日(金)

【実施日】
平成22年9月10日(金)

【実施日】
平成22年9月10日(金)





「コミュニケーション教育・アウトリーチ事業
実演芸術家などのアーティストが、学校活動の一環や、公共的な施設を訪問して芸術普及活動を行う、現場出張型の事業を紹介します。」

鳥牧村・邦楽
和楽器をもっと身近に

「これが三味線の大事な音、サワリといえます」。三味線の特徴であるビーンと響くサワリの音と、サワリのつかない音との比較をしてみると、子ども達も真剣に耳を傾けて聞いてくれます。

平成14年度の学習指導要領の改訂にともない、中学校の3年間の内に、1種類以上の和楽器を、音楽の授業に必ず取り入れることになりました。

しかしながら、五線譜で学んできた音楽の先生達が、突然、和楽器を理解し、子ども達に指導し、楽器の良さを伝えられるか...というと、単純に考えても無理があります。そこで、私たちのような和楽器の実演家などが講師となり、先生・学校と手を取り合って授業を進めることになりました。

ただし、都市部には指導出来る講師を見つけやすいことや、使用する簡易な楽器を調達出来るシステム、祖父母が使っていた楽器の寄贈などが見込めます。

問題は地域の学校です。私達が東京・札幌を経て、後志管内

の黒松内町に腰を落ち着けたちようどその頃、どこの学校の先生方も、どの楽器を選ぶか、どう指導していけばよいか、右往左往していました。

黒松内町では、初めに町内にある楽器(箏)をかき集めた授業を行い、そして使用する楽器、必需品(例えば箏ならば「つめ皮」「譜面台」楽器を収納する「ロッカー」など)を、5年計画で購入していきましました。現在でも学校祭で発表を続けています。

今回、鳥牧中学校では、これまでの「太鼓」に加え、「三味線」の購入が出来たことから、初めて授業に取り組みました。三味線とひとくちに言っても、楽器自体、何種類もあります。また、三味線音楽は大変幅広く、深く、そして細やかに分かれています。そこで今回は、鳥牧村教育委員会、中学校側が、隣町に住む私に、小樽三曲協会さんなどからの縁があった私にたどり着き、3日間にわたり講師を務めることになりました。

授業では、簡単な三味線の歴史、楽器の構造と独特の音が響く仕組み、そして実際の音出しへと進み、勘所(ツボ)を押さえて音階の練習をし、

最後に一人ずつ「さくら」を演奏しました。休憩時間にゲームの曲のリクエストがありました。知らない曲だったのでピアノで弾いてもいい、音を取り、それを三味線で弾くと「弾けるんだ〜！」と驚きの声。これまでも、箏、三味手という子どもでも、箏、三味線にしても反応がよく、興味をもって休み時間でも弾いている姿を思いおこします。自由に弾くと、自分の好きな曲をつま弾き始め、驚いたことには自分のイメージで、和楽器の域を超えるメロディーが出来あがることもあるのです。

私がかかわってきたつながりから思うのは、これをきつかけに、和楽器の奏法を身につけてもらうことではなく、さまざま音楽に出会うチャンスとして捉え、「楽しい」と感じて、将来なにかの時に「やってみようかな」と思う子ども達が出てくる可能性にあると思います。

そのためには、自分たちの住む地域だけで完結させるのではなく、近隣市町村、管内で連携し、地域ぐるみで楽器や指導者の情報を共有することでもっと充実した授業が出来るような気がします。

最後に一人ずつ「さくら」を演奏しました。

最後に一人ずつ「さくら」を演奏しました。

休憩時間にゲームの曲のリクエストがありました。知らない曲だったのでピアノで弾いてもいい、音を取り、それを三味線で弾くと「弾けるんだ〜！」と驚きの声。これまでも、箏、三味手という子どもでも、箏、三味線にしても反応がよく、興味をもって休み時間でも弾いている姿を思いおこします。自由に弾くと、自分の好きな曲をつま弾き始め、驚いたことには自分のイメージで、和楽器の域を超えるメロディーが出来あがることもあるのです。

私がかかわってきたつながりから思うのは、これをきつかけに、和楽器の奏法を身につけてもらうことではなく、さまざま音楽に出会うチャンスとして捉え、「楽しい」と感じて、将来なにかの時に「やってみようかな」と思う子ども達が出てくる可能性にあると思います。

そのためには、自分たちの住む地域だけで完結させるのではなく、近隣市町村、管内で連携し、地域ぐるみで楽器や指導者の情報を共有することでもっと充実した授業が出来るような気がします。

最後に一人ずつ「さくら」を演奏しました。

休憩時間にゲームの曲のリクエストがありました。知らない曲だったのでピアノで弾いてもいい、音を取り、それを三味線で弾くと「弾けるんだ〜！」と驚きの声。これまでも、箏、三味手という子どもでも、箏、三味線にしても反応がよく、興味をもって休み時間でも弾いている姿を思いおこします。自由に弾くと、自分の好きな曲をつま弾き始め、驚いたことには自分のイメージで、和楽器の域を超えるメロディーが出来あがることもあるのです。

私がかかわってきたつながりから思うのは、これをきつかけに、和楽器の奏法を身につけてもらうことではなく、さまざま音楽に出会うチャンスとして捉え、「楽しい」と感じて、将来なにかの時に「やってみようかな」と思う子ども達が出てくる可能性にあると思います。

唯一の糸の巻き取り部の近くにある「サワリ」と呼ばれるしくみ。一糸の開放弦を、わずかに棒に接触させることによって「ビーン」という音を出せるもので、音色に味をつけ、響きを引き延ばす効果がある。三味線の音には欠かせないもの。



邦楽(地歌)教授・生田流正派邦楽会 金石 澄子(金石雅諒)
邦楽の専門学校である正派音楽院、NHK邦楽技能者育成会、文化庁芸術インターンシップで、箏・25弦箏・三絃・音楽理論などを学ぶと共に、古典から現代曲まで各種演奏会に出演。また道内でも、札幌でのリサイタル、さらには坂東玉三郎北海道公演などにも出演。黒松内町では、多くのジャンルの演奏家などとの「音楽の集い」を毎年開催しながら、管内の学校、各種施設などへの訪問演奏を行っている。

information 各種事業の案内

若手芸術家発表事業「夢の畑シリーズ」
2台のヴァイオリンとピアノによるコンサート
今夏P.M.Fのアカデミー生としてコンサート・マスターを務めたヴァイオリニスト小林佳奈さんをはじめとする若手演奏家によるクラシックの名曲や映画音楽などの演奏会を行います。



【石狩市】
日時 平成22年12月15日(水) 18時30分開演
場所 石狩アートウォーム

【社管町】
日時 平成22年12月21日(火) 18時30分開演
場所 社管町地域交流センター 山美湖

【新十津川町】
日時 平成23年2月7日(月) 19時開演
場所 新十津川町ゆめりあホール

【北斗市】
日時 平成23年2月9日(水) 18時30分開演
場所 北斗市総合文化センター「かなでる」

【苫前町】
日時 平成23年2月20日(日) 14時開演
場所 苫前町公民館講堂

文化の宅配便公演のご案内(11・12月)
【ウインドアンサンブルポロコ(木管五重奏)】
【えりも町】
日時 平成22年11月8日(月) 19時開演
場所 えりも町福祉センター
【本別町】
日時 平成22年11月27日(土) 18時開演
場所 本別町中央公民館
【公演名】 札幌室内歌劇場「唱歌の学校」
【仁木町】
日時 平成22年12月18日(土) 16時開演
場所 仁木町町民センター

【公演名】 ユニットリトルバレエ
【公演名】 誰かもわかる楽しいクラシックバレエ

【公演名】 札幌室内歌劇場「唱歌の学校」
【仁木町】
日時 平成22年12月18日(土) 16時開演
場所 仁木町町民センター

この街 この人 積丹町

人から人へ、そして一人から大勢へ。
生活シーンでのアートの可能性は、
人を通して無限に広がっていきます。
地域の文化力を支えている、さまざまな人たちを通して、
道内各地の活動を紹介します。

Shakotan

★積丹町

積丹町美国鯨場遊歩道やん集
小道づくり推進協議会 会長

成田 静宏さん
Seikou Narita



鯨漁でおおいに賑わった海
の町、積丹町^{アメリカ}。鯨漁最盛期
には雇われた男たちの寝泊ま
りする番屋が、いくつも立ち並
んでいたといわれています。

美国に生まれ育った成田静
宏さんは、美国の歴史を後世に
も伝えるとともに、その遺構を
利用して町の活性化につなげ
たいと、2008年に「積丹町
美国鯨場遊歩道やん集小道づ
くり推進協議会」を発足。木造
建築の番屋「旧ヤマシメ邸」の
復旧からとりかかり、昔の町並
みを復興させるプロジェクト
をスタートさせました。

「町には当時の賑わいを知っ
ている方がたくさん住んでい
ます。そういう方たちが、この
場所での町の歴史を語り継いで
いけたらと思うんです」と成田
さん。現在、月に一度は会報の
発行や旧ヤマシメ邸を会場に
さまざまな催しを開いていま
す。年代を超えた町の人々の
結びつきが、ここから生まれ始
めています。

鯨漁の活気を現代に伝える場づくりを

ダイビングショップ ZEMHOUSE 経営

藤田 尚夫さん
Hisao Fujita



積丹の海の素晴らしさを伝えるエコクルージング

ピリカ岬とマツカ岬に囲ま
れ、守られているかのような
幌武意の港。藤田尚夫さんはこ
こでダイビングショップを経営
しながら、積丹の海に棲む野生
動物を観察するダイビングやク
ルージングを行っています。

藤田さんは、初めて潜った時
に感じた海の素晴らしさを伝
えられたらと、35年前、北海道
で最初のコースディレクター
(指導員養成)の資格を取得。
道内各地を潜り、ここ幌武意に
居を構えました。

「ここは知床にも負けない天
然の自然がたくさん残ってい
て、春にはイルカの群れ、冬に
は海鳥や海獣も見ることがで
きるんです」。

1万回以上も海に潜った経
験を活かし、地元の子ども達を
対象にしたダイビング教室も
開催。今年は、小樽水族館と提
携した「海のクルージング」を
開始し、好評を得ました。

「身近な地域の生態系を知る
ことで、自然の事を考えるきつ
かけになれば」と藤田さん。積
丹を基点に、これからも海の大
切さを伝え続けます。



鯨漁の時代を忍ばせる旧ヤマシメ
邸には、追い詰められた鯨をすくう2m
は柄がある「たも網」、鯨を入れた
「もっこ」を背負って運んだ回数
を記録し、後で金銭に換えるため
に使った「まんぼう」など、貴重な
資料が残っています。今後は、町
の資料館的な役割も果たしてい
けたら、と成田さん。





リフォレスト積丹ユースホステル マネージャー

加藤 明さん

Mei Kato

人と人、人と土地が出会う交流の場を目指して

「リフォレスト積丹ユースホステル」は「RE-FOREST-再び森へ帰ろう、森林再生」がその名の由来。山の豊かな四季が、積丹の魅力だと知ってほしいという加藤さんは、山ぶどう採りや、冬のトレッキング案内なども行っています。

日本中を旅し、まだ手つかずの自然が多く残る積丹に魅力を感じた加藤明さんは、18年前に神戸から移住し、ここ積丹に宿をかまえました。

「私自身、旅が好きで、生活の延長上で旅人たちと接していったらと思う、コミュニケーションができる宿を始めました」と加藤さん。宿に集まった人たちが、気さくに話をしたり情報交換をする。宿が通過点ではなく、人との繋がりが自体が目的になるような「コ

ミュニケーションステイ」型の宿泊施設を目指していきたい。そんな想いがこめられたリフォレストには、毎年のように通ってくる方もいるといいます。

また加藤さんは、一般誌には載っていない積丹の自然のことを、細やかに写真付きで紹介したオリジナルの積丹ガイドブック「あなたの知らない積丹半島」を制作。人と人、人と土地を結びつける合流点として、リフォレストはたえずみ続けるでしょう。



積丹町ゆかりの文化の担い手たち

[写真家]

金澤 静司さん

積丹半島の美しさに魅了され、'92年から集中的に神威岬など四季折々の自然を撮影。写真集「神々のいる岬」「風の岬」の発行、CD「カムイ伝説」(森山良子)のジャケット作成など、精力的に活動しています。

[作家]

金澤 克彦さん

東北・北海道の旅を記した英国人女性旅行家、イザベラ・バードの足跡を130年ぶりに辿った「イザベラ・バードを歩く」を2009年に出版。北海道の今と昔を丹念に伝えています。

[シンガーソングライター]

しもま ひろしさん

積丹町・美国町出身。美国町出身の曾祖父をもつ歌手・松山千春に感銘を受け、音楽活動を開始。2010年10月から小樽市社会福祉協議会のボランティア推進に参加し、自然や生命の大切さを歌ったオリジナル曲、童謡などを創作し、活動している。

[有機農業たかのふぁーむ]

高野 健治さん

海外を旅した経験から、自然豊かな地域での農業を志し、積丹で農業を開始。「自分が食べておいしい野菜を」というモットーのもと、道内でも早期に有機農業に取り組み、道外にも根強いファンが多く、積丹の自然の味を全国に広げています。

[積丹町・美国町・雄勝町歩道やん集小道づくり推進協議会 語り部]

戸来 和子さん

網元の娘として過ごし、当時の様子を知る人物として、鯨漁の歴史や文化を後世に伝える語り部として活躍中。

[美国踏青俳句会 会長]

成田 智世子さん

叙情豊かな積丹の美しさを向にうつしとる「美国踏青俳句会」を設立。大人だけでなく、子どもにも俳句を教える場をもうけ、積丹の詩句文化を深める活動に尽力しています。



積丹半島は、北海道遺産にもなっている場所。半島誕生までの海底火山活動の痕跡がみられる断崖と、海食によってつくられた奇岩や洞窟の数々、そこに訪れ繁殖する海鳥の様子などが見られるのは、小型のクルージングボートならでは。





「ゆらぎのしくみ」



日本画家
朝地 信介
Asachi Shinsuke

函館市出身。1994年から日本画を始め作品発表を行う。主に北海道でグループ展、個展を中心に活動。最近では身近に落ちているものや、子どもの作品から着想を得た制作をしている。道展会員、創画展会友、北の日本画展会員。札幌市在住。

「日本画」について考えを巡らしていくと、いつも違う断片が見えてきて飽きません。宇宙的な壮大さを感じることもあれば、俗っぽい可笑しさもあります。伝統的な線の表現などは、物事の芯を捉えているようにも、適当なようにも見えます。

日本画を始めて15年。自分の作品は日本画っぽくないとよく言われますが、常に「日本画」を描こうと意識しています。描き、考える中で見えてきた、素晴らしいようでもくでもないような、真剣なようでふざけているような、日本画に含まれるそんな要素を作品に表していきたいです。

また、日本画に新しさを見つけるたびに、自分も作品も変化し続けたいと思います。(朝地)

information 各種事業の案内

韓国演劇協会光州広域市支会・北海道文化財団文化交流
(自主)事業/札幌劇場祭 Theater Go Round 2010参加
韓国演劇協会光州広域市支会
「タシラギー-再生-」札幌招へい公演

招へい団体名 韓国演劇協会光州広域市支会(光州演劇協会)

上演作品 「タシラギー-再生-」

場所 コンカリーニョ



日時 平成22年11月19日(金)19時開演
20日(土)14時開演

料金 前売/1,000円、当日/1,500円

平成23年度事業募集について

アートシアター鑑賞事業の上演予定リスト

平成23年度の事業募集は、平成22年11月
上旬～12月中旬を予定しています。

※詳細はお問い合わせください。

■上演予定リスト/公演企画

【道内アーティストによる公演】

音楽 ●木管五重奏で楽しむクラシック音楽いまむかし
/木管五重奏団ウィンドアンサンブル・ポロゴ
●ザ・ブラックビートルズ ライブ/ぎょうせい

演劇 ●「蟹と無言歌」/劇団TPS+劇団青羽

舞踊 ●フラメンコへの誘い2011
その他 /小角スペイン舞踊団

【道外アーティストによる公演】

音楽 ●高嶋ちさ子12人ヴァイオリニスト
/音楽舎ベスト・サポート

●フライドプライド+coba+日野給正
with ゲストプレイヤー/アブローズ

演劇 ●6週間のダンスレッスン/シーエイティブロデュース
●父と暮らせば/こまつ座

舞踊 ●「笑い」と「恐怖」の二人会
その他 ~木久屋の爆笑落語と一龍斎貞水立体怪談~
/影向舎

北海道舞台塾 北の元気舞台 札幌公演

北の元気舞台では、地域に根ざした舞台芸術活動を
推進するため、道内の各地域で活動する劇団の札幌
への招へい公演を行います。

【釧路市】

上演団体、作品 劇団北芸「この道はいつか来た道」

場所 シアターZOO

日時 平成22年11月13日(土)19:00開演
14日(日)14:00開演

料金 前売/1,200円、当日/1,500円

【帯広市】

上演団体、作品 おびひろ市民ミュージカル(通称:obiカル)
「ミュージカル さようなら、スバツァカミーノ」

場所 コンカリーニョ

日時 平成22年11月23日(火・祝)17:30開演

料金 前売・当日/1,000円
(3歳以下無料、席が必要な場合有料)

【大空町】

上演団体、作品 町民舞台東藻琴
「薄荷物語-軌道が走っていた頃-」

場所 コンカリーニョ

日時 平成22年11月28日(日)14:00開演

料金 前売・当日/一般1,000円、
高校生500円
※中学生以下無料



静かに訴えかけてくるもの

強く反射してくるもの

生命からのささやきに敏感に耳をかたむけ

真摯に向かいあうアーティストの作品を紹介します



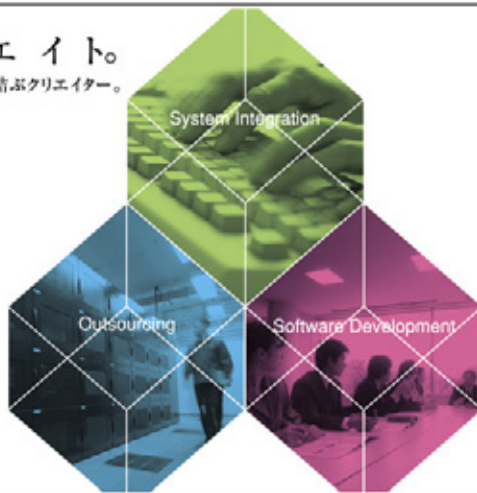
「或る境界の出来事」



「或る表現型Ⅱ」

ITで未来をクリエイト。

私たちHBAは、お客様とお客様の未来を先進のITで結ぶクリエイター。



3つの事業をリレーション。

最適な情報システムの提案、構築、運用を
万全のセキュリティで総合的にを行います。

●システムインテグレーション事業

求められるニーズに対し基本設計から保守に至るまで総合的なソリューションを行います。

●アウトソーシング事業

万全のセキュリティ対策で、お客様の事業における情報化投資の削減をサポートします。

●ソフトウェア開発事業

プロジェクトマネジメント力を生かし、確かな品質と最先端の技術力を提供します。

HBA 株式会社 HBA

〒060-0004 札幌市中央区北4条西7丁目1番地8
TEL.011-231-8301 FAX.011-281-0915
<http://www.hba.co.jp/>



ご用意しているのは、心地よい時間
庭園という名のホテルでお逢いしましょう。

ご宿泊 ご宴会 ご会合 ご婚礼



RESTAURANT

スジカ

四川飯店

地下レストラン

【味の会】



ホテル札幌カーテンパレス 〒060-0001
札幌市中央区北1条西6丁目(道庁南側)
TEL(011)261-5311 FAX(011)251-2938 URL<http://www.hotelgp-sapporo.com/>

札幌駅至近の札幌大学サテライトキャンパスで
中国語、中国文化に関する各種講座を開講しています。



札幌大学孔子学院
<http://www.sapporo-koshi.jp>

孔子学院は中国国家プロジェクトです。

2010年
12月4日
(土)

通信制 学校見学会 開催!

2011年度入学生対象 申し込み・問い合わせは電話またはWebからどうぞ

★ 2010年11月末日まで、転入学・編入学(通学コース)受付中 ★



とわの森三愛高等学校

(酪農学園大学附属)

広域通信制課程・単位制・普通科

通学コース

通信コース

〒069-8533 江別市文京台緑町569番地
JR函館線大森駅から徒歩7分(札幌駅から最速12分)

電話 011-388-4831

URL <http://t3ih.jp/>

とわの森 通信制

検索